

更生保護小松能美通信

発行／小松能美保護区保護司会

発行日／令和4年3月31日

自主研修 「更生保護3団体との連携推進事業」報告

日時 令和4年3月5日(土) 14:00~15:30

場所 小松市第一地区コミュニティセンター 2階ホールAB

参加者 保護司:19名、更生保護女性会:小松地区8名・能美地区8名、BBS会:4名 計39名

1 保護司会 元山会長挨拶

コロナ禍のため2年間交流できなかったが、今回3団体が一堂に会することができて良かった。お互いを理解するためには、顔を合わせて気軽に話し合い、情報交換することが大切。

令和元年「君の笑顔に会いたくて」の上映が成功したのも、皆さんの協力のお陰。これからも社会を明るくする運動を中心に一緒に取り組んでいきたい。

2 全体会 [3団体の活動紹介]

保護司会 中学校でのケース研究会、街頭キャンペーンや視察研修等はできなかったが、学校訪問で作文コンテストに力を入れた。「第72回社明運動市町民の集い」を開催したい。

小松更女 明治時代「小松監獄署」があった頃の獄死者の墓地清掃と慰霊を長年続けている。月1回程度ミニ集会を開いている。施設訪問で対象者と触れ合っている。

能美更女 根上・寺井・辰口・川北の地区活動が中心。愛のかきやま販売を通して更生保護活動に力を入れている。親和寮の夕食作りや湖南学院訪問をして触れ合っている。

BBS会 「キッズフェスタ」や「こどもの日の集い」「矯正展」では、親子の触れ合い活動に参加してきた。若い対象者との友だち活動について保護司会と連携していきたい。

3 分散会 [自己紹介と日頃の活動で思っていること]

第1グループ

保護司 ▶ 原点は人間本来の温かい活動にある。

更女 ▶ みんなができる活動は、かきやま販売だけでなくほかにもできたら。子どもたちの見守りが主になっているが、それだけでいいのかと思う。

保護司 ▶ 女性ならではの感覚が大切。見守りは日本的な地域を守る活動、施設での食事作りは居場所作りの活動。

BBS会 ▶ 家庭環境が崩れた子を預かったことがある。家庭環境が大事。

保護司 ▶ この頃の犯罪を見た時、心理学の勉強会もしなければならぬ。



第2グループ

保護司▶窃盗、薬物関係の対象者が多い。

更 女▶講師を招いてのミニ研修や、愛のかきやま販売の歴史等を勉強。徳風苑の食事作り、湖南学院の奉仕活動等は引き継いでいくことが大切。定年がないので、若い方にどう引き継ぐかが課題。ポチボチやろうと思う。

BBS会▶グループ活動なので、一人一人の活動に対してのお世話ができない。友だち活動ができる少年の対象者を紹介してほしい。今は学生会員を増やす取り組みは難しい。高校生BBSなどの活動を後押ししていきたい。



第3グループ

更 女▶ミニ集会・研修・視察・かきやま販売のほか、子どもの見守り巡回・学習支援等の活動をしており、学校と連携している。川北では地域の繋がりで情報が入ってくるため、勧誘しやすい。文化的活動も取り入れて交流を深め、スキルアップすることでやりがいを見つけることもある。

BBS会▶最近入ったばかり。きっかけは、ボランティア活動に興味があり、縁のある会員からの声掛けがあったから。

保護司▶コロナが終息したら小松大学ともつながりたい。



第4グループ

保護司▶今は対象者が少ないが、以前は多数持った。この経験が他でも役に立っている。

更 女▶湖南学園訪問や見守り等のボランティア活動は自分のためであり、元気をもらっている。育松園でプランターにビオラを植え、子ども食堂に協力している。見守りパトロールは声掛けが大切、子どもの現状を知ることができる。

BBS会▶仕事柄人間形成や地域に関わることの大切さを実感。不登校気味の子がいる。母親の注意は聞かないが、年配者の意見は聞くので、更女や保護司会の力があればと思う。



4 閉会挨拶【協力組織部会長 俵 秀雄】

県の3者連携研修会に毎年出席してきたが、今回保護区でも開催できてよかった。お互いのことがわかってくると話がしやすくなり、気持ちもつながる。これからも続けていきたい。

5 まとめ

コロナ禍の中、皆さんのお陰で開催できほっとしている。今まで一緒に事業はしたことがあっても、面と向かって話し合うことはなく、「この研修会ができて良かったね」という声を聞くと、やってよかったと思う。今後、皆さんの意見・思いをもとに連携の輪を広げて活動に活かしていきたい。